



都市における空き家・空き地の現状とその社会的活用の可能性

都市経営学部都市経営学科 准教授 大谷 悠

キーワード 空き家、空き地、まちづくり、ドイツ

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

計画や不動産市場から「見放された空間」としての空き家・空き地が、地域住民の居場所、移民・難民の社会的統合、新たな文化・芸術・食の発信拠点、子どもの遊び場など、多様な人々を包摂する社会的な役割をもつ空間へと発展する可能性について、研究と実践の両面から探っている。具体的なフィールドはライブツィヒ(ドイツ)、尾道(日本)、トビリシ(ジョージア)などであり、都市計画、建築、都市社会学、地理学、哲学、ネットワーク理論、民俗学など、まちづくりに関連する幅広い分野を横断しながら、学際的な視点をもって研究を行っている。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

これまでの連携実績

- 尾道の山手に立地する古民家を改装したまちづくり拠点「迷宮堂」との連携
- ドイツ・ライブツィヒのまちづくり拠点「日本の家」との連携
- ジョージア(グルジア)・トビリシのまちづくり拠点「UZU HOUSE」との連携